

第4回 専門研修ワーキングチーム(社会的養護)での主な意見と論点等①

【イメージ図(案)について】

御意見	論点・方向性等
「里親・施設等のボランティア」について、 ・ 補助的な支援者として研修受講までした人材を示す言葉としてはイメージに合わない。 ・ 「ボランティア」には無償というイメージがある。	イメージ図を修正。
「社会的養護の補助的な支援者」には、ファミリーホームの養育補助者、小規模化した施設の補助職員に加えて、児童養護施設や母子生活支援施設等における補助的業務を行う職員も含まれていると考える。それらを表す表現が必要。	

【基本研修における「子ども虐待と社会的養護」について】

御意見	論点・方向性等
内容の①子ども虐待と影響などにおいて、DVの影響が抜けている。基本研修においても、内容等に「DV」を明記してもらいたい。	専門WTとしての意見として、子育て支援員研修修了者が理解しておくべき基本的な内容として、検討会に提案してはどうか。

第4回 専門研修ワーキングチーム(社会的養護)での主な意見と論点等②

【「(4)家族との連携」について】

御意見	論点・方向性等
目的の③に「ペアレントトレーニングなど」とあるが、支援の一手法と考える。支援の目指すところとして「家族再構築支援」としてはどうか。	「家族再構築支援」と修正。
「家族再統合」という言葉も用いるため、「家族再構築」と「家族再統合」を併記してはどうか。	
母子生活支援施設では、「家族再構築」を用いている。「再統合」であれば元の家庭に戻る意味が強くなるが、「再構築」では「再統合」も含めた概念で示すことができるのではないか。	
「家族」と「保護者」が用いられている。「保護者」とは法的に明確に規定されている。親族も含めた「実家族システム」という概念で支援を考えることもあるので、全て「家族」で置き換えてはどうか。	子どもの自立の過程において必要な家族と子どもとの関係について大枠を理解した上で、次に保護者に焦点を合わせて「保護者の抱える困難」について理解する。そして、家族再構築について理解する。そのような視点で、「家族」と「保護者」を使い分けてはどうか。 詳細については、ガイドラインに記載してはどうか。
里親研修では、「実親支援」や「実親との連携」という使い方をする。	

第4回 専門研修ワーキングチーム(社会的養護)での主な意見と論点等③

【「(8)緊急時の対応」について】

御意見	論点・方向性等
内容の「③配慮を要する対応について」に該当する目的欄に「③食物アレルギー等」とあるが、DVの観点では「連れ戻し等への対応」が配慮を要する。追跡に対する配慮も必要。また、最近は「不審者の対応」なども配慮を要することである。 目的の「⑤加害者対応について」は、わかりにくい。	「配慮を要する対応」の具体的内容は記載せず、ガイドラインに詳しく記載することにしてはどうか。 同様に、説明が必要な「加害者対応について」は、「配慮を要する対応」のガイドラインの方に記載するようにして、科目の目的からは削除してはどうか。

第4回 専門研修ワーキングチーム(社会的養護)での主な意見と論点等④

【「(9)施設等演習」について】

御意見	論点・方向性等
「映像」というと動画をイメージする。写真などでもよいと考えるため、「画像」としてはどうか。また、「鑑賞」でなく、「視聴」としてはどうか。 ・ 全国共通の本研修で用いる「画像」を定めてはどうか。 ・ 地域の実情を反映して、「画像」の選択は講師に任せてはどうか。 ・ 基本形として、児童養護施設の画像を用いてはどうか。 ・ 「社会的養護の入り口」として、社会的養護の実施体制がわかるよう、全般的な画像をもちいてはどうか。 ・ 本研修の趣旨から、ファミリーホームや小規模化した施設を中心にしてはどうか。	
実施場所は施設等で、その実施機関の職員が演習を行うのはどうか。 ・ 受講者のニーズに応じて、見学できる施設が選択できるのが理想ではないか。 ・ 施設等の見学も可能となるので実施場所を施設等にするとすれば、時間が不足するのではないか。また、ファミリーホームなど小規模な現場では、研修生全員を受け入れることが難しいのではないか。 ・ 最低限の決まりとするならば、場所は規定しないで、望ましい場所を実施することとし、内容として30分は画像(映像、写真等)などで理解するための努力をし、その後グループワークを実施することとしてはどうか。	現場の理解としての画像または見学は、地域の実情に応じて講師の選択に任せることとしてはどうか。 演習は、小規模化した施設かファミリーホームをベースに里親との関係などに触れる内容にしてはどうか。 細かい点については、ガイドラインに記載することとし、30分の画像等による現場理解と90分の演習という枠組みについて規定することとしてはどうか。
ファミリーホームの養育補助者の養成を主たる目的とする場合は、見学や演習もファミリーホームに合わせた内容にしてはどうか。 ・ 実際の子どもと接する際に起こりうる子どもの反応などを演習してはどうか。 ・ 「入り口」と考えると、一般的な施設等の様子を理解した上で、社会的養護の中で職員が感じたやりがいや苦労などを感じ取れる内容とし、この分野の人材として期待していることが伝わるものにしてはどうか。	